

# くろぐみだより

あさひこ幼稚園 第4号 平成23年11月18日

あさひこ tweet…

(年長さんがラグビーを始めました。ボールをとられないように必死に抱える姿を見た年長男児が)  
「みんな自分の卵を守ってるみたいだねえ」  
(さすが、ナマの生き物の生死を見てきた子…)

## ★特集★ ヒーロー番組、子どもに見せて、本当にいいですか…！？

お久しぶりです！今回のくろぐみだよりは「テレビ」を軸に、いまわたしたちが思っていることをお伝えしようと思います。

…今回は副園長ばかり書いています。すみません。たぶん5号がすぐ出ると思うので、まあ、今回はこれで。

この「くろぐみだより」は「半オフィシャル・裏あさひこつうしん」だと思っていますので、ハッキリ言って「書きたいように書いてます」。あくまでもバランスのよい中立の立場を…的な、公立の先生みみたいな書き方をしていません。けっこう激しいです。でも真剣です。よろしく願います。

### 地デジ難民 変ですか？ (副園長)

わたくし副園長の家は、いま流行の「地デジ難民」でございます。これを言うと、けっこう、驚かれることが多いです。えー！テレビ無いの？マジで？って言われます。

でも、自分としては、「そんなに変なことか？」と思っています。あ、ちなみにテレビはあります。50 インチのでっかいのもあります。これはモニターとして、僕も好きなライブDVDを見たり、ときには、あんまりやらないほうがいいとは思いつつも！…家事をするために息子にアニメを見せたりするときだってあります。

じゃあなんで？と言えば、まず基本的に、僕があまりテレビを必要としないからです。別に芸能界のことにも興味はないし、バラエティーを見ないと死んじゃう体質でもないし、ドラマを見るより映画のほうが好きだからです。

ニュース見なきゃ！ともよく言われますが、我が家は新聞すらとっていません。どうも、テレビも新聞も、マスコミというのを信用できないからです。

震災以降の放射能・原発に関する情報。最近では、「TPP」に関する完全に偏向された報道(個人的な意見ですが、TPP などには絶対参加してはいけない！)と思っています。ネットやYoutubeで「中野剛志 TPP」と検索してみてください。これらを見ていると、「まるで特定の誰かの利益になるように・不利益にならないように」作られている報道なんて、「見ないほうがいい」と思わざるを得ません。

僕としては、今の社会情勢の中で、情報というものは「受身で待っていてきちんと与えられるもの」ではない、それらはもう信用できない、と思っています。皆さんの多くも、そう思っているのではないのでしょうか？テレビの言うことは正しい、と心底思っている人がどれだけいるのでしょうか？

現代では、本当に重要な情報は、自分から手を伸ばして探すもの。だから、マスコミよりもインターネットの情報・ニュースをいろいろと見て、「自分の頭を使って」冷静に比較・分析したほうが、ずっとよいと思っています。

それに、NHK 受信料も新聞代もいらぬし。あと、テレビの消費電力はけっこう高い！節電にもなります。

冷静に考えれば、テレビ、そんなに必要ですか？だってタダの家電じゃないですか。トースターやポットがない家だってあるでしょう。別に、なくたって困りませんか？あ、災害情報とかは、ラジオあるし。

「どうせ副園長先生は変人だから…」という人がいそうですが！2億歩譲って僕が変人だとしても！うちの奥様は、たぶん「普通の人」です。「テレビの契約やめる」って最初に言ったときは「えーっ！？」って感じで戸惑っていましたが、実際見られなくなって、それが当たり前の生活になると、別になんともなく対応しています。まあ、しょせん変人の妻かもしれませんが…

あと、より重要な、もっと積極的な、どうしてもテレビをなくしたかった理由が、「息子にテレビを見せたくない」から、というものです。

次につづく！

### S. H. T. !…ちょっと待って？ (副園長)

月曜日！！  
一週間の始まり！  
そこで、学年にもよりますが、幼稚園では、先生がやっつけなくてはいけないものがあるのです…  
ズバリ言います。「スーパーヒーローのイメージ」です。

日曜日 午前7時半～8時半 いわゆる「スーパーヒーロータイム(S.H.T.)」と呼ばれる時間帯。「スーパー戦隊シリーズ」と「仮面ライダー」が連続するテレビ朝日系列のあの時間です。

そこで子どもたちは、「かっこいいヒーロー？」のイメージを五臓六腑に染みこませて来るのでしょうか。月曜、登園した一部の子どもたちの遊びは、そのイメージに沿って行われます。どんな遊びだと思いますか？

### たとえば、年少さん。

今の「ゴージャス」は、武器が「銃」なので、他の製作のために用意した新聞などが銃になり、それを持った子ども達が「バンバンバン！」とヒーローになりきっています。

年少さんは、遊びの中で役割分担をしません(できません)。あくまで、個人個人が、「自分のイメージ」で遊びます。

ヒーローになりきった子どもが、ままごとコーナーなどに入るとは「バンバンバン！」、簡単にいうとその場を荒らし、破壊していきます。他の子どもはなかなか落ち着いて遊ばせん。

それで、クラスの友だちを敵に見立てて撃ち殺そうとします。もちろん、役割分担なんてありませんので、バンバン殺りあっている子たちは、お互いヒーローです。または、全然関係ない子を敵に見立てて撃ち殺します。

もちろん、戦隊ものですから、何人かで1人をやっつける、という構図も当たり前です。同じように銃を持っている子を見つけて、関係ない子を一緒に撃ちます。

当然その中では、「なにかをやっつけたい」イメージから、友だちを叩いたり、「悪いことをするやつは殺していい」イメージから、「悪いことをした」と判断した子をやっつけようとしたり、ということもよくあります。

それで遊びはいつも同じパターン。バンバンやってやっつける、だけで、イメージの広がりも深まりもありません。

### 年中では。

ヒーローになりきり、主人公の名前を名乗り登園する子がいます。強いものに憧れ、紙で剣を作り、積み木で戦隊ものの乗り物を作り、そのイメージで遊びます。

年少と違って、イメージを共有したり、簡単に役割を分担したりして遊べますが、遊びの質は、上記の年少とあまり変わらず、遊びの結末が「戦って、誰かが倒れておしまい」というワンパターンしかないのも、遊びに、イメージに、広がりが生まれません。また、ヒーロー好きの子だけで遊ぶので、遊びの人間関係も広がりにくいです。混じりません。

ハッキリ言って、まったく、面白くもなんともない、子どもの発達にプラスになる遊びにならないのです。

そこで先生たちは、いろいろと考えます。魅力のある、そして子どもの発達に合わせた、子ども自身が課題化できる遊びを考え、用意します。そして子どもの豊かな育ちのために、金曜日まで、保育をします。子どもたち

も、一週間かけて、ヒーローのイメージから脱して、豊かに遊びこんでいきます。

それで、月曜日が来ます。  
スーパーヒーローになりきった子どもたちと共に…

ハッキリ言いますと、これ、なんとかならんもんですかね？

人間って、あらゆる動物の中で、一番暴力的です。こんなに暴力と闘争を繰り返す動物は他にいません。あらゆる理由をもって、暴力、暴力、暴力です。闘争ばかりしています。そういう動物なのかもしれませんね。

でもその結果、この歴史、どんないいことがあったのでしょうか？

これからの時代、人間はあくまで、それが仮に動物としての人間の本能に背くものだとしても、「非暴力」の道に進まなくてはいけない、と考えています。話しあうことで、認めあうことで、分かちあうことで、生きていく。そうしないと、もうこの地球で人間が生きていくことは不可能。そうではありませんか？

なのに、なぜこの国の大人は、子どもに暴力番組を見せたがるのでしょうか？

園長が、何年前か前、ヨーロッパ各国の幼児教育の視察に出かけた際、スウェーデンの先生から、「子どもたちを取り巻く日本の暴力テレビ番組をどう思うか？」と問われたことがあるそうです。そこで指摘された「暴力テレビ番組」とは決して大人のアクションや時代劇ではなく、「〇〇レンジャー」や「仮面ライダー〇〇」のことでした。

なぜなら、その内容は常に「殺し」が当たり前で、「(自分たち基準の)正義のためなら他者を殺していい」というものだからです。そしてさらにそのヒーローたちのキャラクターが商品化され、巨大な市場(おもちゃ・遊園地・イベント etc.)を形成し、金儲けの構造に家族を巻き込んでいます。「子どもを楽しませるプロ」たちが作った、暴力に満ちた刺激的な番組。それはもう何十年前前から続き、「親世代」という立派な土壌を作り、今や日曜朝の時間を、親子子どもと一緒に楽しみにして、お父さんも喜んで見て、おもちゃを買い、グッズを買い、イケメン俳優を使い、女性(お母さん)のファンも増やしています。ドラマ性を持たせて、大人の鑑賞にも堪えうるクオリティです。今や、それは「当たり前」に存在するものとなり、大人たちは無感覚になり、見過ごしているのです。

しかし、それは本当に今、幼児たちに見せるべきものですか？

「勧善懲悪の価値観を知ることができる！」というメリットをあげられるかもしれませんが、たしかに、「悪いものは悪い、駄目なものは駄目」という、理屈抜きの「人間が群れて生きていくための価値観」を幼児期に育むことを期待するのもわかります。しかし、だったらそれは「ももたろう」でいいじゃないですか。絵本や物語の世界に、そのような話はいくらでもあります。ヒーロー番組は、幼児にそのような価値観を育むことのみをねらいにするには、暴力の刺激が強すぎます。人間としての価値観より、暴力のありかたそのものの刺激が強すぎ、子どもには暴力の印象、そればかりが残ってしまいます。(そしてまた、市場主義でありすぎます)

それでもテレビがあって、見ることができるなら、子どもたちは見たがるのかもしれませんが、砂糖やアルコールや煙草や麻薬のように、やめられないのかもしれませんがね。

だから、僕はテレビ自体をやめました。物理的に見れないなら、どうしたって見れませんから。息子にあれらを見せないためなら、自分が大して面白いとも思わない娯楽のひとつくらいは、当り前に、捨てられます。

極端に思うかもしれませんが、それほど嫌だったのです。幼稚園の現場で、その影響のすごさを、間近で、何十人分も見てきていますから。

それに僕は、自分自身がヒーロー世代です。子どものころは、ダイナマン、バイオマン、ギャバンシリーズなど、大好きでした。だからわかるんです、その魅力も。

わりと大人になっても喜んで見てました。カクレンジャーとかカーレンジャーとか。平成ライダーシリーズは、特撮の見せ方も、デザインも、ドラマ性もいいですね。すごいクオリティです。面白いです。わかります。だから、怖いんです。だってあれは、大人が見るものではないですか？「名作だから」といって、性表現が豊富な「ラストタンゴ・イン・パリ」や「アイズ・ワイド・シャット」、「愛のコリーダ」を子どもに見せますか？それは子どもの発達に合っていますか？性をテーマにした作品は、子どもにふさわしくない、と誰

もが思うでしょう。じゃあ、性と暴力の、どこに違いがあると言うのでしょうか？

ズバリ言います。

ヒーロー番組は、子どもたちには、ふさわしくありません。

ハッキリ言って、言にくいです。子どもたちがすでに今「好き」と言っているものを否定するのは、みなさんが子どものためにヒーローのおもちゃを買ったり、お弁当のおにぎりの海苔をライダーの形にしたりしているのを見ていて、なお否定するのは。

しかしそれでも、どーにかならんもんかな、と思っています。

極端に、みなさんテレビは卒業しましょう、とは言えません。

でも、各家庭で考えてみませんか？

お父さんとお母さんと話し合ってみませんか？

この「当たり前」は、ほんとうにこのまま「当たり前」でいいのか？

子どもは環境に働きかけて育ちます。

村積山は季節ごと、色とりどりの花や葉に彩られて、たくさんの小さな、大きな動物たちが息づき、子どもたちは、瑞々しい感性のアンテナをあたりに張り巡らせて、素晴らしい生命力で環境に働きかけて育っていきます。そんな子どもたちの精神(こころ)はとてもしなやかで、真綿のように経験したことを心に染み込ませて人格を形成していきます。大人にはとてもまねることの出来ない吸収力です。幼児教育は「環境による教育」という原則があるのですが、まさにその通りです。

そんな子どもたちを健全に育てていくには、われわれ大人が子どもたちの周りに「望ましい環境」を用意していくことが、とても大切です。

そんな私たちの「当たり前」を、もう一度みんなで考えてみませんか？

これに対するご意見、ご相談等があれば…電話で、メールで、連絡帳で…ぜひお待ちしております。

## 野外文化教育学会に参加しました (副園長)

先日6日(日)、岡崎市で行われた「野外文化教育学会 第12回大会」に、発表者として副園長が、シンポジストとして園長が参加してきました。僕は「幼児期の自然体験と環境教育」というテーマで発表をしてきたんですが、なかなか面白かったです。あさひこ幼稚園では当たり前に行っている「自然体験からの環境教育」というあり方が、世間ではまだ一般的ではないのだなあ、と思いました。ちなみに発表のレジメ(一部抜粋)はこんな感じでした。

### 1. 環境問題に対して

環境問題に取り組むにあたっての3つのアプローチ…「技術革新」「法規制」「環境教育」

幼児にとっての環境教育…他の2つと独立していなければならない

環境教育は技術革新と法規制の解説ではない

→環境問題の解説をすることが環境教育ではない

環境問題の根底… スタートとしてあるべきこと 「人と自然がどう関係していくか」

### 2. 幼児期の自然体験

「遊び」としての豊富な生活的、試行錯誤的自然体験の繰り返し、五感による直接入力の中で、「人もまた自然と一体なのだ」(快・不快をともに体験して、自然が好きだ、心地よい)

→「自然を守りたい(=自分たちを守りたい)」という感性の獲得、関係性の認識

→環境教育は特別な教育ではない よりよく生きるために「深く関係し、よく知り、そして認める」という幼児教育そのもの(「環境による教育」)であり、まったく同じもの

それが幼児の主体的な活動、遊びであるということが重要

そしてこの学会で受けた刺激をもとに、さらに園での環境教育を充実させていきたいなあと思いました。